

教室に入ったら、すでにリハーサルをしていて、講義にかける本気度が

榎戸 友子（修士課程 1年）

とにかく笑って楽しかったことが印象に残っています。

教室に入ったらすでにリハーサルをしていて、講義にかける本気度が伺えました。

大きな声で表情が豊かで聞き取りやすい声で、体の大きな動きで全身で訴えかけて来るものを感じました。

大学院の授業の中であそこまで笑ったことも初めてです。本当に笑うって大切ですね。その後気持ちが楽になって帰ることができました。

そして、べてるに対する熱い思いを感じました。体験取材って本当に大変だと思うし、特にいろんな問題を抱えている人たちと一緒に生活するのは大変でしょう。それでも対等な立場で接していたのですね。相手の気持ちをしっかり考えているからこそすれ違いもあり、その中でわかり合えるのだと思いました。

べてるは病気の症状をそのまま受け入れて、問題があればすぐにミーティングをするんですね。話し合いが問題解決には一番大切ですね。

爆発してしまった人との関係の修復の過程がとても参考になりました。他の人もミーティングで本気で考えてくれて、協力し合えるのがいいですね。

妄想カルタっていうのがあるのは知っているかと思いますが、最初にそのカルタの存在を知った時面白いと思いました。

私が活動しているひきこもりの支援活動でも、笑いに変えていけないかと考えています。しかし、どちらかと言うと自虐ネタになってしまうんですね。そうして、どちらがより大変かという「逆マウントの取り合い」になってしまうんです。

私も自分の病気の経験を笑いを持っていければとも思いましたが、そうでもなくて、じっくり自分に向き合って人に話していけば理解してもらえるように感じました。

今回の講義は楽しく刺激的でした。ありがとうございました。